

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	庄 ゆかり
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
ICTを活用した授業における学習者分析と教育手法評価			
論文審査担当者			
主査	准教授	隅谷	孝洋
審査委員	教授	中村	純
審査委員	教授	岩崎	克己
審査委員	教授	佐野	真理子
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、ICT（Information Communication Technology）が進歩した現代において、それを高等教育の現場でどのように活用していけるのか、という問題に対して行われた一連の研究をまとめたものである。</p> <p>ICTを活用した新しい教育手法、もしくは従来からある教育手法にICTを活用して拡張するものは多くの種類があり、どのような状況でどういった手法が有効であるかは、理論的な考察を基に実践を通して検証していくことが必要になる。本研究では、大学初年次学生対象情報教育授業（広島大学教養科目「情報活用基礎」）の2単元において、学習者分析と教育評価を行い、当該単元の評価と改善をおこなっている。ICTを利用することで多くの学習データが蓄積されるが、それを用いて授業を改善することを、インストラクショナルデザインの基礎になるADDIEモデルに組み込んで実践したものである。</p> <p>本論文は6章から構成されている。第1章「序論」では、授業デザインの理論について概観し、本研究の目的を述べている。本研究の目的は、特定の状況（オムニバス形式であることが特徴的）で行われる授業において、e-learning ツールをはじめとするICT利用を通じて得られる各種のデータを用いて多面的な学習者分析と教育手法の評価を行い、授業におけるICTの活用は授業効果を向上するのみではなく、インストラクショナルデザインの理論に基づいた授業設計のためにも有効であることを示すことである。</p> <p>第2章「研究の手法」では、本研究で実践対象としてとりあげる授業のトピックである「学術情報の収集と利用」、「学生ピアレビュー」について先行研究を概観し、授業の設計方法ならびに本研究でどのような観点から評価するのかについて述べている。</p> <p>第3章「文献情報リテラシー授業の効果」では、大学図書館が提供する文献情報リテラシー授業において、LMS(Learning Management System)に掲載した教材を用いることで授業時間外学習および事前・事後テスト・アンケート等を実施、多様なデータの分析結果を授業デザインに反映させることで授業効果を向上させるとともに、大学初年次における文献情報リテラシー教育の必要性を明らかにした。第4章「授業に対する学生の主観的な難易度と有益感」では、第3章で扱った授業でのアンケートを中心として、客観テストの結果と主観的な評価の関連性について調べている。</p>			

第5章「ピアレビューの匿名化が学生に与える影響」では、ICTを利用してピアレビューを匿名化した場合でも、効果的なピアレビューが実施できるかどうかを調査している。あらかじめ提出された学生レポートを題材に、実名レビューと匿名レビューを各2クラスずつで実施、匿名レビューと実名レビューの効果の比較および学生の行動への影響を調査し、ピアレビューという教育手法の効果を検証するとともに、この手法を授業に効果的に適用するための知見を得た。

第6章「結論」では、ICTを利用して得られる多様なデータを用いて学習者分析を行い、授業改善につなげていけることを示している。

LMSが利用されるようになって、システムから得られるデータを用いて学習者分析を行っている研究は非常に多いが、本研究ではそれを毎年の教材改善に着実に組み入れ、PDCサイクルを形成することで授業改善につなげていけることを実践から明らかにしたもので価値が高いと考えられる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。